

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第41回大会(高知)報告

(1) 日本藻類学会第41回大会(高知)

上記大会を2017年3月23日(木)～25日(土)高知大学朝倉キャンパスにて開催した。

大会1日目は、午後に編集委員会、評議員会、ワークショップI「原生物学会出張ワークショップ：原生物学会の藻類学研究的紹介」(世話人 矢吹 彬憲 会員)を行った。2日目は、口頭発表(2会場)、ポスター発表(奇数番号)、総会、懇親会を行った。3日目は、口頭発表(2会場)、ポスター発表(偶数番号)、ワークショップII「クロレラと気生藻の魅力ー採集・観察から分類・バイオマス生産」(講義編)(世話人 河地 正伸 会員)を行った。

また、3月26日(日)には、ワークショップII(実習編)、およびエクサカーション「高知の海藻採集会」(高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設;世話人 平岡 雅規 会員)を行った。

(2) 編集委員会・評議員会

大会1日目(3月23日)15:00より高知大学朝倉キャンパス共通教育棟2号館210室にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を行った。

英文誌については、ワイリー・パブリッシング・ジャパン社の山田氏から2016年度の出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。次に、神谷充伸英文誌副編集長(小亀一弘英文誌編集長が欠席のため代理)から「Phycological Research」の2016年度および2017年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2016年度については64巻が総頁数318頁、掲載論文数35編であったこと、2017年度については65巻1号に11編が掲載され、2号に11編の掲載予定で、3号以降の受理論文数は3月1日現在12編であることが報告された。編集にかかる日数、投稿者の国名、2015年までのインパクトファクターの推移等が報告された。編集体制については、2017年から編集長が交代(神谷充伸氏から小亀一弘氏)し、副編集長にも6名の新任と5名の退任があったことが報告された。英文誌編集費の支出について、「Phycological Research」に掲載した総説のカラーページ料金(7万円)を支出したと説明があった。

和文誌については、須田彰一郎和文誌編集委員長より「藻類」の2016年度および2017年度の編集状況に関する報告があった。2016年度については64巻に5編の原著論文のほか、藻類学最前線、特集：研究奨励賞受賞記念、論文賞受賞記念等の報文11編、大会プログラムと同講演要旨、企画記事、学会録事等が掲載され、総頁数は167頁であったことの報告があった。2017年度については65巻の刊行計画と編集方針の説明があった。和文誌「藻類」の論文賞の制定について審議が行われ、投稿・掲載論文の少なさもあり、今回も昨年

を引き続き見送ることになった。投稿案内の一部改正案について審議が行われ、改正案が了承された。また、「藻類」の封筒の宛名が編集長名になっている件が報告され、来年度から宛名を学会事務局と変更することになった。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて16:30より行われた。2017年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議が行われた。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2017年度総会

大会2日目(3月24日)16:30より高知大学共通教育棟212室にて、総会を行った。奥田一雄学会会長兼大会会長の挨拶の後、川井浩史 会員(神戸大学)を議長に選出し、議事に入った。

【報告事項】

・庶務関係

(1) 会員状況(2017年2月28日現在)：名誉会員3名、普通会员965名(国内・一般602名、国内・学生220名、外国177名)、団体会員41名、賛助会員9名、「藻類」国内定期購読14件(2017年6月1日現在)。

(2) 2016年度事業報告：1) 日本藻類学会第40回大会・評議員会・総会(日本歯科大学生命歯学部、2016年3月18日～20日)の開催、2) 和文誌「藻類」64巻1～3号の発行(3, 7, 11月発行)、3) 英文誌「Phycological Research」64巻1～4号の発行(1, 4, 7, 10月発行)、4) 持ち回り評議員会の実施(4回)、5) AlgaeBaseのスポンサーとしてサポート(5万円)、6) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の募集と選考、7) 日本藻類学会学術賞・山田賞の募集と選考、8) 第19回日本藻類学会論文賞の授与と第20回日本藻類学会論文賞の選考、9) 第12回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与と第13回日本藻類学会研究奨励賞の募集、10) 日本藻類学会第40回東京大会企画公開特別講演会 Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? A South Seas view of diatom species」の開催(2016年3月19日、日本歯科大学生命歯学部・100周年記念館141講堂)、11) 日本藻類学会第40回東京大会企画ランチョンセミナーの開催(1)「日立SEMと藻類を中心としたアプリケーションのご紹介」(2)「現代医療の孫の手になりつつある微細藻類 *Haematococcus pluvialis*」、12) 藻類学ワークショップ(1)「光学顕微鏡法の技術向上のために」(2016年3月20日、日本歯科大学生命歯学部)(2)「千葉県館山の藻類採集・観察会」(2016年3月20日～22日、東京海洋大学水圏科学フィールド研究教育センター館山ステーション)の開催、13) 第2回アルガルービー鑑賞会の開催(2016年3月18日、日本歯科大学生命歯学部)、14) 和文誌「藻類」の転載許可状

表1. 2016年度一般会計決算(2016.1.1-2016.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,485,000	和文誌経費		2,396,413
普通(国内・一般)	3,637,000		英文誌経費		4,313,650
普通(国内・学生)	360,000		編集費		168,981
外国会員	298,000		和文誌編集補助費	98,981	
団体会員	980,000		英文誌編集補助費	70,000	
賛助会員	210,000		庶務費		394,060
和文誌関係収入		1,221,950	事務用品費	70,730	
定期購読	97,950		会議費	38,760	
バックナンバー	3,000		通信印刷費	272,852	
別刷・超過頁代	1,001,000		諸雑費	11,718	
広告代	120,000		幹事旅費補助		81,000
著作権許諾料金	0		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		907,025	自然史学会連合分担金		20,000
定期購読	0		分類学会連合分担金		10,000
掲載料・超過頁代	546,646		レンタルサーバー代		6,994
版權還付金	360,379		AlgaeBaseへの寄付		50,000
受取利息		530			
小計		7,614,505	小計		7,561,098
前年度繰越金		13,492,186	次年度繰越金		13,545,593
合計		21,106,691	合計		21,106,691

表2. 2016年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2016.1.1-2016.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,482,879	論文賞用雑費	55,300
受取利息	普通預金 398		
		次年度繰越金	2,427,977
合計	2,483,277	合計	2,483,277

表3. 2016年度研究奨励賞事業特別基金会計決算(2016.1.1-2016.12.31)

収入(円)		支出(円)	
前年度繰越金	2,442,146	奨励賞賞金	100,000
受取利息	普通預金 403		
		次年度繰越金	2,342,549
合計	2,442,549	合計	2,442,549

日本藻類学会 2016年度決算書に対し記名捺印する
 2017年3月16日
 2016年度 会長 田中 次郎 印
 2016年度 会計幹事 松岡 孝典 印
 決算書が適正であることを認める
 2017年3月16日
 2016年度 会計監事 長田 敬五 印
 2016年度 会計監事 芹澤 如比古 印

況(5件), 15) 自然史学会連合の事業に参加, 2016年度自然史学会連合総会 開催(詳細については「藻類」65巻1号に掲載), 16) 日本分類学会連合の事業に参加, 第16回総会およびシンポジウム 開催(詳細については「藻類」65巻1号に掲載), 17) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加, 平成28年度第1回協議会 開催, 平成28年度第2回協議会 開催(詳細については「藻類」65巻1号に掲載), 18) 日本学術会議主催公開シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方と其中長期戦略」を後援, 20) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載, 2017年3月現在第62巻第3号までのPDF fileを閲覧・ダウンロード可能, 21) 学会HPによる情報配信, 主な掲載内容: 大会案内, シンポジウム等のお知らせ4件, 研究助成の募集2件, 諸賞の募集4件, 教員・研究員の公募2件, その他のお知らせ3件, 更新内容: 「藻類」投稿案内, 学会役員・歴代役員・研究奨励賞・論文賞等の学会資料集, 大会案内, 22) 学会連絡メー

ルによる情報配信, 登録数267名。2016年度は計10回のメール配信を行った。主な内容: シンポジウム等のお知らせ6件, 諸賞の募集2件, 教員・研究員の公募1件, 研究助成の募集1件, 23) 第18回マリンバイオテクノロジー学会大会(2016年5月28日~29日, 北海道大学函館キャンパス)の協賛。

・会計関係

(1) 2017年2月28日現在の2016年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は, 普通会员(国内・一般)97%, 普通会员(国内・学生)108%, 普通会员(外国)87%, 賛助会員75%, 団体会員76%であった。

(2) 2016年度一般会計決算等, その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2016年度に発行した英文誌「Phycological Research」64巻1~4号は, 総頁数318頁, 掲載論文数35編であった。

(2) 2016年度に発行した和文誌「藻類」64巻1~3号は,

総頁数167頁、内訳は原著論文5報のほか、藻類学最前線5報、その他の報文11報、日本産海藻目録(2015年改訂版)の訂正、日本藻類学会第40回大会プログラム、学会録事、その他(遊藻子3報、藻見遊山1報など)であった。

これらに関連した詳細については、前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・会計関係

(1) 2016年度一般会計決算報告および同監査報告(会計監

表4. 2017年度一般会計予算(2017.1.1-2017.12.31)

収入(円)			支出(円)		
会費		5,780,400	和文誌経費		1,600,000
普通(国内・一般)	4,082,400		英文誌経費		4,500,000
普通(国内・学生)	308,750		編集費		300,000
普通(外国)	299,250		英文誌編集補助費	200,000	
団体会員	820,000		和文誌編集補助費	100,000	
賛助会員	270,000		庶務費		297,000
和文誌関係収入		369,500	事務用品費	30,000	
定期購読	85,500		会議費	60,000	
バックナンバー	3,000		通信印刷費	200,000	
別刷・超過頁代	160,000		諸雑費	7,000	
広告代	120,000		幹事旅費補助		80,000
著作権許諾料金	1,000		大会補助費		120,000
英文誌関係収入		850,000	自然史学会連合分担金		20,000
超過頁代・掲載料	600,000		分類学会連合分担金		10,000
版權還付金	250,000		レンタルサーバー代		6,800
受取利息		1,000	AlgaeBaseへの寄付		50,000
			派遣旅費補助		50,000
小計		7,000,900	小計		7,033,800
前年度繰越金		13,545,593	次年度繰越金		13,512,693
合計		20,546,493	合計		20,546,493

表5. 2017年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算(2017.1.1-2017.12.31)

収入(円)		支出(円)		
受取利息	普通預金	500	論文賞記念品	33,600
前年度繰越金	2,427,977	次年度繰越金	2,394,877	
合計	2,428,477	合計	2,428,477	

・庶務関係

(1) 2017年度事業計画として以下の事項が承認された: 1) 日本藻類学会第41回大会・評議員会・総会(高知大学朝倉キャンパス, 2017年3月23日~26日)の開催, 2) 和文誌「藻類」65巻1~3号の発行(3, 7, 11月発行), 3) 英文誌「Phycological Research」65巻1~4号の発行(1, 4, 7, 10月発行), 4) 日本藻類学会編「藻類事典」(仮称)の出版準備, 5) 藻類和名の整理に向けた「藻類和名のワーキンググループ」の活動, 6) 日本藻類学会特別賞・岡村賞の授与(2017年3月), 募集と選考(2018年3月授与), 7) 日本藻類学会学術賞・山田賞の授与(2017年3月), 募集と選考(2018年3月授与), 8) 第13回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与(2017年3月)と第14回日本藻類学会研究奨励賞の募集(2018年3月授与), 9) 第20回日本藻類学会論文賞の授与(2017年3月)と第21回日本藻類学会論文

賞:長田 敬五氏, 芹澤 如比古氏)は表1のとおり承認された。

(2) 2016年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表2のとおり承認された。

(3) 2016年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表3のとおり承認された。

(4) 2016年度一般会計, 山田幸男博士記念事業基金特別会計, および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表4, 表5および表6のとおり承認された。

表6. 2017年度研究奨励賞事業特別基金会計予算(2017.1.1-2017.12.31)

収入(円)		支出(円)	
受取利息	500	奨励賞賞金	200,000
前年度繰越金	2,342,549	次年度繰越金	2,143,049
合計	2,343,049	合計	2,343,049

賞の選考(2018年3月授与), 10) 自然史学会連合の事業に参加, 11) 日本分類学会連合の事業に参加, 12) 水産・海洋科学研究連絡協議会の事業に参加, 13) イベントの協賛・国際シンポジウム「東日本大震災により流出し, 東北沿岸から北太平洋を横断してアメリカ・カナダに辿り着いた海洋漂流物について」, ・市民向け国際講座「津波で流されたものはどこに行ったか?」(仮題), ・第19回マリンバイオテクノロジー学会大会, ・The IVth International Conference "The Molecular Life of Diatoms", ・環境微生物学会合同大会2017, 14) 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HP上への掲載, 15) 学会HPによる情報配信, 16) 学会連絡メールによる情報配信。

・その他

日本藻類学会第42回大会(2018年3月23日~25日)の開催地を東北大学青葉山コモンズ(仙台)とすることが承認された。

【日本藻類学会学術賞・山田賞の授与】

日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、日本藻類学会学術賞・山田賞の発表と授与が行われた。今回は横濱 康継氏が選ばれ、賞状および記念品が授与された。

【日本藻類学会研究奨励賞の授与】

日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、第12回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。今回は山口 晴代氏（国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター、海産微細藻類の系統分類学的研究）と木村 圭氏（佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター、海洋小型珪藻に感染するウイルスの生理・生態学的研究）が選ばれ、それぞれ賞状および副賞（賞金10万円）が授与された。

【日本藻類学会論文賞授与】

第19回日本藻類学会論文賞の発表および授与が行われた。これは2015年に発行された英文誌「Phycological Research」64巻1～4号の中から、規定に従い審査員の投票によって選ばれ、合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は

下記の論文が選ばれ、論文の著者に賞状および記念品が授与された。

Okuda, K., Sekida, S., Hasebe, A., Iwabuchi, M., Kamiya, M. and Hishinuma, T.

Segregative cell division and the cytoskeleton in two species of the genus *Struvea* (Cladophorales, Ulvophyceae, Chlorophyta).

Phycol. Res. 64 (4): 219-229.

2. 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HPへの掲載状況

2017年7月7日現在、63巻1号までのPDF fileを閲覧・ダウンロードできる状況。なお、56巻1号～63巻1号のPDF fileは個別の論文ファイル論文に分割され、論文ごとに検索可能。

3. 学会HPによる情報配信と記載内容の更新

2017年4月～6月に掲載・更新した内容は、学会資料集（特別賞、学術賞、研究奨励賞、論文賞、大会記録・公開シンポジウム・講習会・採集会）、日本藻類学会第42回大会（仙台・2017）の日程と大会会長・実行委員、「藻類」第63巻1号の論文PDFファイル、第65巻1号の目次、およびお知らせ数件（学術集会・研究助成など）など。

会 員 異 動

新入会	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
個人会員		
青森	石戸谷 芳子 ISHIDOY, Yoshiko	弘前市千年4-53-3
茨城	松尾 恵梨子 MATSUO, Eriko	筑波大学大学院生命環境科学研究所 つくば市天王台1-1-1
京都	有保 秀徳 ARIYASU, Hidenori	京都大学総合人間学部 京都市左京区吉田二本松町
京都	武藤 清明 MUTO, Kiyooki	京都大学大学院人間・環境学研究所 京都市左京区吉田二本松町
和歌山	山西 秀明 YAMANISI, Hideaki	すさみ町立エビとカニの水族館 西牟婁郡すさみ町江住808-1
島根	大木 智世 OKI, Tomoyo	島根大学大学院教育学研究科 松江市西川津町
長崎	島岡 啓一郎 SHIMAOKA Keiichiro	長崎県総合水産試験場 長崎市多良良町1551-4
所属変更	機関名または氏名	所属機関または住所
個人会員		
北海道	市原 健介 ICHIHARA, Kennosuke	北海道大学室蘭臨海実験所 室蘭市舟見町1-133-31
宮城	板倉 茂 ITAKURA, Shigeru	国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所 塩釜市新浜町3-27-5
茨城	大田 修平 OTA, Shuhei	国立環境研究所 つくば市小野川16-2
栃木	三瓶 ゆりか MIKAME, Yurika	栃木県立博物館 宇都宮市睦町2-2
東京	滝本 彩佳 TAKIMOTO, Ayaka	海苔のふるさと会 非公開